

① バッチ処理方式

ア 処理概要

生徒の氏名、献立の内容（朝・昼・夕の別と料理数、料理名と材料数、材料の食品番号と分量）をOCRの用紙に記入させる。それを入力して、朝・昼・夕食ごとに料理の栄養量と献立一覧表、さらに夕食の献立一覧表には家族の平均所要量との差を計算し、印字する。

イ 入力形式

氏名	料理件数	朝・昼・夕の区分
10桁	2桁	2桁

例 YOSHIDA△△△△1アサ

材料件数	料理名
2桁	25桁

例 △1ゴハン

材料の成分番号	グラム数
6桁	5桁

例 010414△△120

ヒルとユウの分は上と同じく繰り返す。なお、データはアサ、ヒル、ユウの順で入力する。

ウ システム・フローチャート

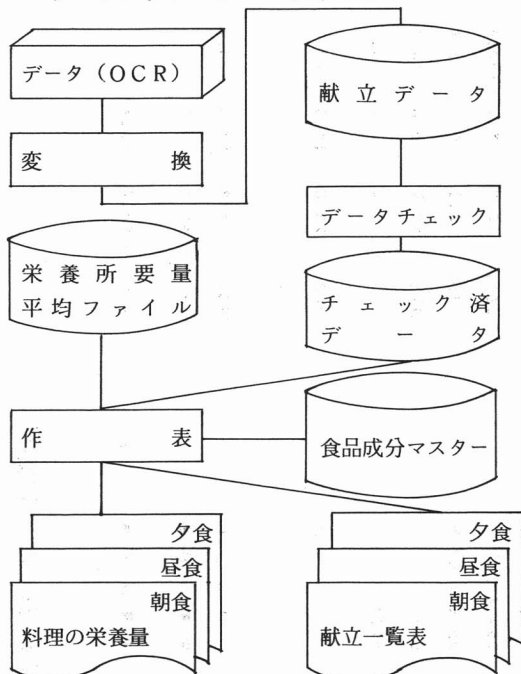


図6 バッチ処理のシステム・フローチャート

② TSS処理方式

栄養所要量の計算と同様コマンドプロシジャーを使用して利用者の負担を軽くした。

ア システム・フローチャート

○ 1回目の処理

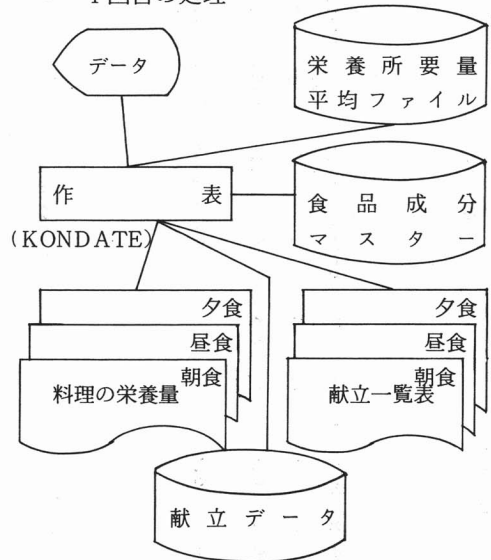


図7 TSS処理のシステム・フローチャート

○ 2回以降の処理

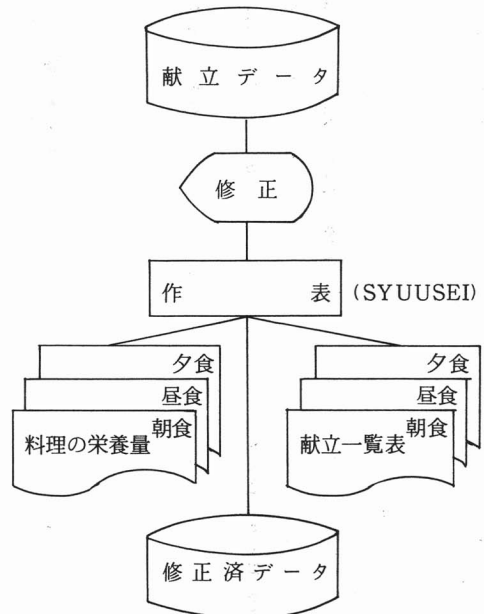


図8 TSS処理のシステム・フローチャート

イ TSSの実行手順